

第19回東洋大学社会福祉学会
テーマ：社会福祉学におけるリカレント教育

2024.7.13

米国大学・大学院での社会人教育 と武蔵野大学での実践

武蔵野大学
熊田博喜

本日の内容(本報告の問い)

本シンポジウムのタイトルは「社会福祉学におけるリカレント教育」です。
このタイトルは私にとって2つの意味を持っています。

- 
- 50の半ばを越え、アメリカの大学の留学した私にとってのリカレント教育
 - 本務校(武蔵野大学)では、通信教育の大学院を担当している関係で、仕事としてのリカレント教育

- ❑ 本報告では、報告者にとってのリカレント教育、報告者の仕事としてのリカレント教育の2つの側面から時系列に沿って雑感(エッセイ)的に報告させていただきます。
- ❑ 従って学術的な内容はなく、留学・教育経験の断片であることをご容赦下さい。

1. 米国留学の概要
2. 留学に関わった授業・プログラム/行った活動
3. 留学後－人間社会研究科実践福祉学専攻について
4. 若干のまとめ～社会福祉学におけるリカレント教育に寄せて

1. 米国留学の概要

【留学先】

University of Missouri St Louis (UMSL) School of Social Work

- 同僚教員の仲介で、U.S.先生の紹介頂き、その後、B.G.先生に留学後のホストの先生を引き受けて頂くことになった。
- 渡米は2022年4月27日、帰国は2023年の3月23日

- U.S.先生は、1990年代に東洋大学の窪田暁子先生・園田恭一先生と交流があり、その関係もあって私の渡米前・渡米後には好意的に対応頂いた。
- B.G.先生は、東洋大学の須田木綿子先生との交流があり、その関係もあって私のホストも好意的受けて頂いた。

留学そのものは、現在の勤務校がグローバル戦略を展開していることもあり、学科では2番目の教員として海外留学の機会を得た(なお私以降、ハワイ、オーストラリア【予定】に留学を順次展開中)



1. 留学の概要

University of Missouri St Louis (UMSL) School of Social Workの教育プログラムについて

- BSW(Bachelor of Social Work) : 学士レベルのソーシャルワーク・ジェネラリストとして実践
- MSW(Master of Social Work) : 修士レベルのソーシャルワーク・高度な専門的実践

BSWのカリキュラム

下記に加えて実習が400時間入る

SOC WK 2000	Social Work and Social Issues	3
SOC WK 2001	Social Work and Social Issues Lab	1
SOC WK 2200	Social Welfare as a Social Institution	3
SOC WK 3100	Social Work Practice with Individuals	3
SOC WK 3210	Social Issues and Social Policy Development	3
SOC WK 3410	Research Design in Social Work	3
SOC WK 3510	Human Behavior in the Social Environment	3
SOC WK 3700	Diversity and Social Justice	3
SOC WK 4110	Social Work Practice with Families and Groups	3
SOC WK 4300	Social Work Practice with Communities	3
SOC WK 4350	Human Service Organizations	3
SOC WK 4800 & SOC WK 4850	Supervised Field Experience in Social Work I and Supervised Field Experience in Social Work II	8
SOC WK 4801 & SOC WK 4851	Integrative Field Experience Seminar I and Integrative Field Seminar II	4

ECON 1000	Economics in Everyday Life (MOTR ECON 100) or ECON 1005	3
POL SCI 1100	Introduction to American Politics (MOTR POSC 101)	3
PSYCH 1003	General Psychology (MOTR PSYC 100)	3
Biology		
Select one of the following:		3-4
BIOL 1012	General Biology: The Science of Life (MOTR BIOL 100)	
BIOL 1102	Human Biology (MOTR LIFS 150)	
BIOL 1131	Human Physiology and Anatomy I	
BIOL 1141	Human Physiology and Anatomy II	
Sociology		
SOC 1010	Introduction to Sociology (MOTR SOCI 101)	3
SOC 2160	Sociological Social Psychology	3
Select one of the following:		3-4
SOC 3220	Quantitative Data Analysis in Social Science Research	
PSYCH 2201	Psychological Statistics	
CRIMIN 2220	Statistical Analysis in Criminology and Criminal Justice	

1. 留学の概要

University of Missouri St Louis (UMSL) School of Social Workの教育プログラムについて

- BSW(Bachelor of Social Work)：学士レベルのソーシャルワーク・ジェネラリストとして実践
- MSW(Master of Social Work)：修士レベルのソーシャルワーク・高度な専門的実践

MSWのカリキュラム

下記に加えて実習が900時間入る

SOC WK 5100	Generalist Social Work Practice	3
SOC WK 5200	Social Policy and Social Services	3
SOC WK 5300	Community Practice and Social Change	3
SOC WK 5350	Social Work and Human Service Organizations	3
SOC WK 5410	Critical Thinking and Analysis	3
SOC WK 5450	Social Work Research Methods and Analysis	3
SOC WK 5500	Human Behavior in the Social Environment	3
SOC WK 5700	Diversity and Social Justice for Social Work	3
SOC WK 5800	Graduate Field Practicum I	4
SOC WK 5801	Foundation Field Practicum Seminar	2

- 留学そのものは大学・学科の方針が強く反映されていたため、まずは海外留学が前提となっていた。
- 報告者自身は、今回の機会にアメリカのSWについて学んでみたいことと併せて、特に地域福祉を専門としている関係で、アメリカにおける地域福祉やNPOについて学んでみたいと考えていた。
- 科目としてはMSWとBSWの課程に設置されていた科目を履修した(以下、説明)。

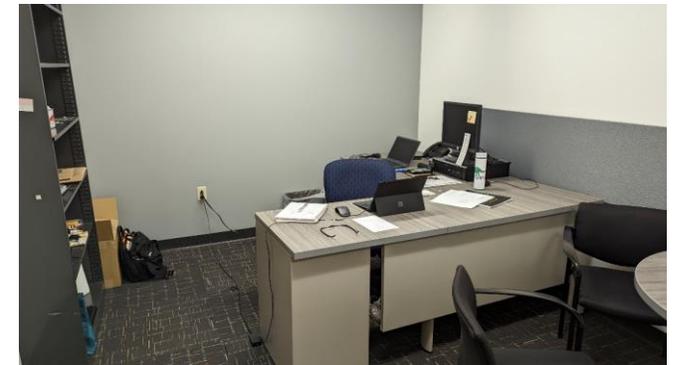
2. 留学に関わった授業・プログラム/行った活動

UMSLに関わる内容について

- ▶ 渡米が4月27日で、Spring Semester Commencementが5月14日、その後、夏季休暇に入り、Fall Semesterが8月22日から始まっている。
- ▶ ホストの先生のサポートでUMSLの Language and Cultural Studiesのオンラインレッスンを週一回受ける
- ▶ Fall Semesterが8月22日～12月6日
- ▶ Spring Semesterが1月17日～3月15日まで出席
- ▶ また研究室を提供して頂き本当に助かった。



▶ Spring Semester Commencement



My Office

2. 留学に関わった授業・プログラム/行った活動

UMSL Summer Semester 【5月15日～8月21日】 and more

- 
- この期間は実習が動いており、日本だと実習指導や訪問に該当する授業に参加した。
【水】
 - Integrative Field Experience Seminar 15:30～17:30
 - 【不定期】
 - Site Visit
 - またこの時期、居住地(Missouri州のSt. Louisの隣のClaytonというところに住んでいた)実施されているELS(English as Second Language)というクラスに月～木に通っていた。

2. 留学に関わった授業・プログラム/行った活動

UMSL Fall Semester 【8月22日～12月6日】



➤ 以下の授業を受講した。

【月】

- Research Design in social work 9:30～12:15
- Generalist Social Work Practice 18:45～21:15

【火】

- Social Work and Social Issues 9:30～12:15
- Community Practice and Social Change 18:45～21:15

【木】

- Social Work and Human Services Organization
16:00～21:00不定期開講

➤ 併せてFirst Year Experience classに参加した

【火】

- First Year Experience class 12:30～13:30



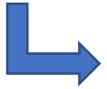
➤ Research... Class



➤ GSWP Class

2. 留学に関わった授業・プログラム/行った活動

UMSL Spring Semester 【1月17日～3月15日】



➤ 以下の授業を受講した。

【火】

- Social Work Practice with Individual 9:30～12:15
- Social Policy and Social Services 16:00～18:30

【水】

- Advanced Community Development Theory and Practice 16:00～18:30
- Human Behavior in the Social Environment 18:45～21:15

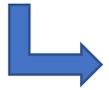
➤ UMSLで知り合いになった日本人教員の授業に一度参加した

【火】

- Multicultural Counseling 17:30～20:00

2. 留学に関わった授業・プログラム/行った活動

UMSL関連のプログラム/活動



- ホストの先生の研究プロジェクトのオンライン見学
- **Federal Reserve Bank of St Louis**(セントルイス連邦準備銀行)との研究プロジェクト
- 研究テーマは、「**COVID-19**パンデミックにおける非営利組織の回復力」
- 米国における最新の全国**COVID-19**コミュニティインパクト調査データを用いて、パンデミック時の非営利組織の回復力を理解すること
- なおこの研究成果は22年度の**ARNOVA**でホストの先生が報告している。



- **Family Fair with United for Children** (8月13日) イベント参加
- **United 4 Children**というセントルイスの**NPO**法人が実施するイベントにUMSLのメンバーが参加
- **Food**プログラムにつなげるための出店で、情報提供等の対応していた。
- なおこの取り組みの成果の一部は今年度の福祉社会学会でホストの先生が報告している

2. 留学に関わった授業・プログラム/行った活動

UMSL関連のプログラム/活動

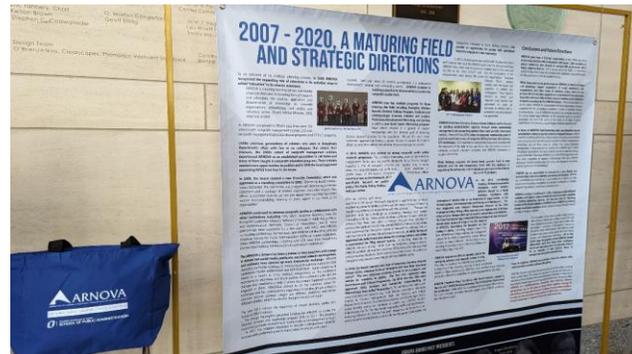
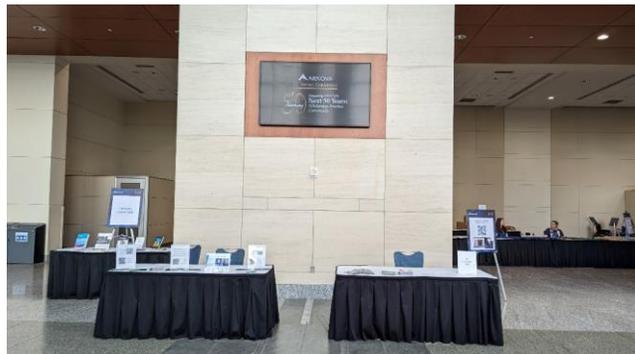


- UMSLの日本語コースの教員の紹介を受けた。
- そのコースに学生組織JASA(Japan-America Student Association)という組織がある。
- その組織が中心となってJapanese-English Language Exchange Table(JELE table)という取り組みが週一回行われ、Fall Semesterは参加していた。

2. 留学に関わった授業・プログラム/行った活動

学会への参加

- ホストの先生の紹介で、ARNOVA（The Association for Research on Nonprofit Organizations and Voluntary Action）に参加した。
- 22年度はRaleigh, North Carolinaで11月17日～19日に開催された。



2. 留学に関わった授業・プログラム/行った活動

学会への参加

- ▶ SSWR (The Society for Social Work and Research) に参加した。
 - 22年度はPhoenix, Arizonaで1月12日～16日に開催された。



2. 留学に関わった授業・プログラム/行った活動

小括

- UMSLの学士課程は他の学科(例えば、UMSLの日本語コース)の学生と比べ、明らかに年齢の高い学生が多かった。
 - UMSLの修士課程は学士終了者が入学することは前提となっており、年齢の高い院生が多く、既に様々な福祉機関・施設で仕事をしたり、福祉ではないところ(例えば飲食店)で仕事をしている学生がほとんどだった。
 - 今回のこの報告資料を作成している際に、UMSLのホームページで以下のNEWSを発見した
- Dondiは、記事によると事故で脊椎損傷をして車椅子生活をしているが、今年の8月にBSWを取得して、今後はMSWを取得して更に仕事を広げていきたいとのことであった。
 - 私は22年度の“Social Work and Social Issues”と“Social Work Practice with Individual”で一緒に授業を受けていた(英語が話せない私にKindだった)。
 - 私は初めて彼の背景の記事で知ったが、このような背景のある学生は特にBSWの課程に多いのではないかと感じている。
 - UMSLは公立大学であるため、近隣のSSWの大学(Washington University)よりも学費が安く、ミズーリ州住民への入学措置があるため、社会人が入学しやすい条件があるのではないかと考える。
 - この点はまだ十分に深められていないため、今後の検討課題である。

出典：[Social work graduate Dondi Baldwin advocates for students and community members with disabilities - UMSL Daily](#)

3. 留学後－人間社会研究科実践福祉学専攻について

経緯と概要

2001年武蔵野大学大学院人間社会・文化研究科福祉マネジメント専攻が開設

- 夜間開講のみとなっており、社会人を対象とした大学院教育を実施

2018年武蔵野大学大学院通信教育部人間社会研究科実践福祉学専攻が開設

- 通学制に併せ置く形で、通信教育課程を設置
- レポートと対面を選ぶことができ、コロナ後は、その中間的形態のオンライン授業も広がってきている
- カリキュラムは右のように、「原理科目群」「実践理論科目群」「関連領域科目群」「リサーチ科目群」「特定課題研究(修論)」で構成している。
- ディプロマポリシーは下記の通り。

実践福祉学専攻では、実践力、研究力及び指導・管理能力に秀でた専門的な職業人および研究者・教育者養成の観点から以下の要件を満たした者に修士（社会福祉学）の学位を授与する。

1. ソーシャルワークに関する研究力・実践力として、より高度な価値規範・倫理・知識に基づく判断やマイクロ・メソ・マクロレベル、国内外を視野に入れた実践・研究に従事する能力等を有していること。
2. 多職種・機関との協働・連携、人材育成、組織運営管理、組織・社会の変革、資源開発、ネットワーキングに関する能力等を有していること。
3. 3.科学的根拠に基づく研究・教育活動を行うための技術・知識等を有していること。

開講年次	科目名	単位数		
		必修	選択	
1年次	原理科目群			
	仏教と共生原理		2	
	社会福祉原理研究		2	
	社会福祉制度政策研究		2	
	実践理論科目群			
	ソーシャルワークの基礎	2		
	個人や家族のソーシャルワーク		2	
	グループを活用したソーシャルワーク		2	
	ジェネラリストソーシャルワーク	2		
	ソーシャルワークケースマネジメント		2	
	コミュニティを基盤としたソーシャルワーク		2	
	ソーシャルワークアドミニストレーション		2	
	ソーシャルワークスーパービジョン		2	
	関連領域科目群			
	家族支援特論		1	
	グリーフケア特論		1	
	アントレプレナー特論		1	
	国際社会福祉特論1		1	
	国際社会福祉特論2		1	
	リサーチ科目群			
	ソーシャルワークリサーチ総論	2		
ソーシャルワークリサーチ各論		2		
量的分析方法特論		1		
質的分析方法特論		1		
プログラム評価特論		2		
フィールドワーク演習		1		
2年次	特定課題研究演習	4		

3. 留学後－人間社会研究科実践福祉学専攻について

傾向

定員は、10名となっているが、基本入学者は堅調に推移している

社会人入学者が多い関係で。修了者は少ない傾向にある。

40歳代の院生が多い。社会福祉現場勤めのメンバーがほとんど
「これまでの実践をまとめたい(見直したい)」
「次のステップを考えたい」という院生が多い

4. 若干のまとめ～社会福祉学におけるリカレント教育に寄せて

- A) 社会福祉(もしくはSW)は、実践が伴う研究・教育であるため、リカレント教育のニーズが高い領域といえる。
 - B) 報告者が関わっている大学院通信教育部においても社会人(現場実践者)は多く、自身が留学し、アメリカの学部・大学院教育の一部学ばせてもらう中で、A)の事実について強く感じた。
 - C) とはいえ、アメリカではSW養成の中心は大学院【MSW】にあり、日本のSW養成の中心が学部【社会福祉士】にあることを考えると、おのずと大学院におけるリカレント教育の意味は変わるように考える。
 - D) 改めてリカレント教育としての日本における大学院教育の意味を考える必要があるように思う。
-
- E) 「リカレント教育」にある種に優位性を有している社会福祉学において、教育を受ける側だけでなく、する側もリカレントを経験することは気づきを得られる貴重な機会となった。
 - F) 特に海外で一学生として授業を受けることは、授業の教授法、シラバスの書き方のようなテクニカルな点だけでなく、社会福祉(SW)を学ぶ学生を通して、その学ぶ意味【MUSLの学生のケース】や教育によって権利を回復する過程を考えさせられるきっかけを得られた。
 - G) とはいえ、留学までの準備は勿論、留学中の「家(居所)」「銀行」「車(移動手段)」等々の手続きを一年間という短期で進めることは正直、大変な労力と時間を要するものであり、特に報告者のような全く海外経験のないものについては大変な負担であったことも偽らざる事実である。
 - H) ただそれが日本で学ぶ留学生の大変さを知る契機になっており、そのような苦難も含めて今後に生かせるのかが、リカレント教育に意味につながると考える。